

イチジク株枯病抵抗性台木「Ischia Black」

イチジク産地では、土壌病害であるイチジク株枯病（以下、株枯病）が蔓延し、廃園が続出するなど深刻な問題となっています。そこで、大阪府環境農林水産総合研究所ではイチジク品種の中から、主要品種「柘井ドーフィン」に適する果実生産性の高い株枯病抵抗性台木「Ischia Black」を選抜しました。

☆ 技術の概要

1. 株枯病汚染圃場では、自根や「Zidi」台の「柘井ドーフィン」が、定植3年以内に4～5割の株が枯死するのに対して、抵抗性台木を使用した場合には明らかに枯死率が低くなります（図1）。
2. 「Ischia Black」および「Negronne」台「柘井ドーフィン」は、健全圃場においては、自根樹以上の生育が期待できます。この内、「Ischia Black」台使用樹は、株枯病汚染圃場やいや地圃場でも、自根樹以上の樹勢を確保できます。
3. 「Ischia Black」台使用樹では、樹勢が強く果実肥大が促進される傾向があり、「柘井ドーフィン」の台木として、株枯病汚染圃場を含む様々な条件において、果実生産性の向上が期待されます（図2）。

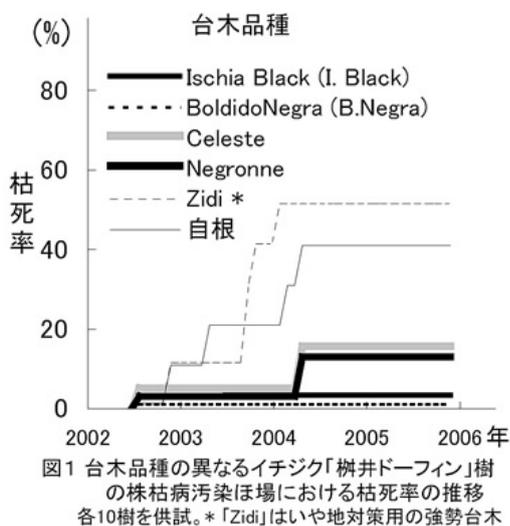


図2 「Ischia Black」台を使用した「柘井ドーフィン」樹

☆ 活用面での留意点

「Ischia Black」と「柘井ドーフィン」の接ぎ木親和性は良好で、接ぎ木苗を早期に育成するには「緑枝接ぎ」が有効です。ただし、「Ischia Black」は「柘井ドーフィン」に比べて挿し木発根が遅い傾向があり、挿し木には発根促進剤の使用が推奨されます。

その他詳細については、大阪府環境農林水産総合研究所・食の安全研究部（電話072-958-6551）までお問い合わせ下さい。

（農研機構果樹研究所 企画管理部 研究調整役 別所英男）